

3 清掃資機材の使い方

(1) タオルの使い方 使用資機材：タオル（雑巾）、バケツ、長机（学習机）、水

1 準備

- (1)バケツに水を3分の1から半分ほど入れる→こぼしにくくする。
- (2)タオルを持ち、バケツの前に片膝を立てて座る。長袖を着ていたら、袖をまくる。



2 絞る

- (1)タオルを水に浸す。タオルを水から上げ、二つ折りの位置を両手で持つ。
- (2)さらに二つ折りにする。
- (3)短い棒状にしたタオルを、両手のひらに乗せて下から握る（バットの握り方と同じ）。
- (4)両手で内側に絞り込む（バケツの中で絞ると、バケツのまわりをぬらさない）。絞ってもタオルから水がたれなくなるまで、固く絞る。
- (5)バケツの外に水滴をたらしないうよう、バケツの上で手についた水をタオルで拭く。



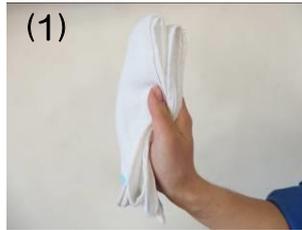
3 たたむ（八つ折り）

- (1)タオルを広げ、両端を揃えて長い辺を折る（二つ折り）。
 - (2)長い辺の両端を両手で持つ。
 - (3)さらに長い辺を半分に折る（四つ折り）。
 - (4)さらに長い辺を半分に折る（八つ折り）。
- 〔わかりやすくするため、タオルの端を青く塗ってあります。〕



4 持つ

- (1)ハつ折りにしたタオルの折り目のない辺（バラバラの部分）を、親指と人差し指ではさむ→めくれることを防ぐ。
- (2)親指と他の4本の指ではさんで持つ。



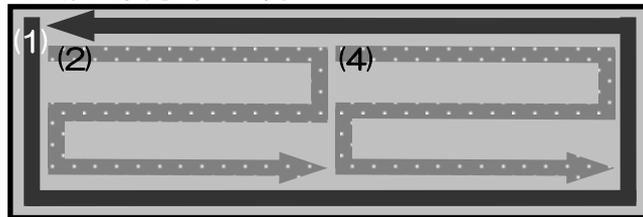
5 拭く（長机を拭く） 左半分から始める場合の例（右半分から始めてもよい）

- (1)机の左上隅からスタートし、机の周りを一周する。※
- (2)一周した中の左半分を、奥から手前に向かって、3 cm程度重なるよう、コの字型に拭く。
- (3)作業途中でタオルの汚れを確認する。汚れていたら、その面が内側になるように折り返す。→汚れた面に手を当てると手が汚れ、新しい面も汚れる。
- (4)中央に拭き残しが無いよう、右半分も同じ手順で拭く。
- (5)仕上がりを点検する。汚れが残っている箇所や拭き残しを拭く。

※拭き残しなく拭けることを評価する。

長机を右半分から拭き始めたり、スタート位置が例と異なっていたり、周りを時計回りに拭いたりしてもよい。

●長机の拭き方の一例



6 洗う

- (1)タオルを持ち、バケツの前に片膝を立てて座る。
- (2)バケツの中でタオルを広げ、汚れている所を両手でこすり合わせ、水がたれなくなるまで固く絞る。バケツの水が汚れたら、水を替える。



7 片付け

- (1)バケツの周りにこぼれた水滴を拭き取る。
- (2)タオルをタオル掛けに干し、両端を揃えてひっぱって、しわを伸ばす。
- (3)バケツは洗って、水分を拭き取る。



- タオルを使う利点：①多くの面を使える ②洗やすい ③乾きやすい

(2) 自在ぼうきの使い方

使用資機材：自在ぼうき，ちり取り，毛がき

1 準備

- (1) 運ぶとき→人や物に当たらないよう，柄をまっすぐに立てて身体に寄せて持つ。
- (2) 置くとき→ほうき・ちり取り・毛がきを通行の妨げにならない場所に床に寝かせる。



2 持つ

- (1) ほうきの柄の先端に片手の親指をのせて握り，もう一方の手は柄の先端より30～40cmほど下を，親指が上になる向きで握る。
- (2) 両足は肩幅ぐらいに広げて，背筋を伸ばして立つ。



3 掃く

【押さえ掃き】

- (1) 身体の前を横方向に動かし，前進しながら掃く。ゴミを取り残さないよう，前の掃き跡に少し重ねて掃いていく。
- (2) ときどき毛先を床に軽くたたいて，毛先についたゴミやほこりを落とす。
- (3) ほこりを舞い上げないように，ほうきの毛先を床から離さず，軽く押さえるように掃く（押さえ掃き）。
- (4) 一回の掃き幅はおよそ120～150cm（柄を握っている下の手を伸ばしたところから掃き始め，両足の前を過ぎたところで掃き終える）。
- (5) ほうきを壁や机にぶついたり，毛先を床に強く押しついたりしない。



4 ゴミを取る

- (1) 掃き寄せたゴミは適宜一カ所に集めて，ちり取りで取る。
- (2) ほうきの柄の下の方を親指が下になる向きで握る。

- (3) ほうきの毛先幅の半分程度を
ちり取りの中に入れるように
して掃き込む。
- (4) ゴミを取り残さないよう、ち
り取りを2~3回後ろにずら
しながら取る。



5 廊下を掃く

- (1) 出入口の右側から掃き始め、
壁際のごみを中央に寄せる。
- (2) 壁際の掃き方：ほうきを幅木
に当てないよう、ほうきの頭
部を幅木に対して斜めにして
幅木に沿って掃き、次に身体
の前を横方向に掃く（L字型
に掃く）。
- (3) 区画の端まで進んだら、身体
を90度回転させて次の列の
足場を掃く。その後、進む方
向に身体を90度回転させ、
前進して掃く。
- (4) 中央に集めたゴミを出入口に
向けて掃きちり取りで取る。
- (5) 掃き終えた区画を点検する。
掃き残しがあれば掃き取る。
- (6) 作業後、毛先のゴミやほこり
を毛がきで取る。

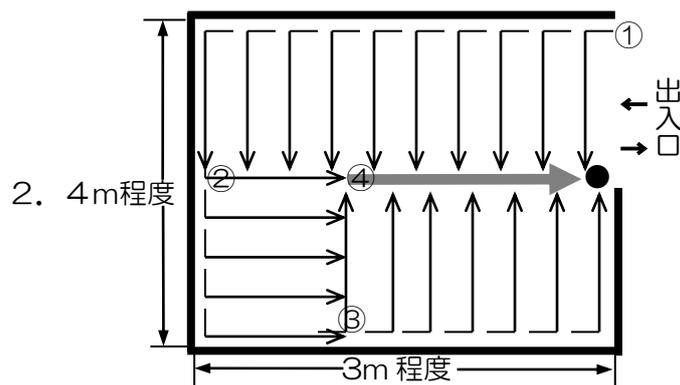


6 保管

- (1) 自在ほうきを保管する際、つ
るすか、毛先を上にして立て
るようにする。毛先を下にし
て立てかけると、毛先に変な
くせがつく。



● 廊下の掃き方の一例



← 掃く方向

● ゴミを集める位置

- ・ 県検定の作業場所は、奥行3m×幅2.4mの長方形とし、幅木により区画します。
- ・ 校内検定は、廊下に角材を置くなどして、同程度の広さの作業場所で行ってください。

(3) スクイジーの使い方

使用資機材：スクイジー、タオル2枚、バケツ、水

1 準備

P.5 『タオルの使い方』 1～3参照

- (1) スクイジーはゴム刃を上にして置く。→刃を傷めないよう
- (2) バケツに水を3分の1から半分ほど入れる。
- (3) タオル 1 枚を水にぬらし、ゆるめに絞る。
- (4) 絞ったタオルを八つ折りにする。

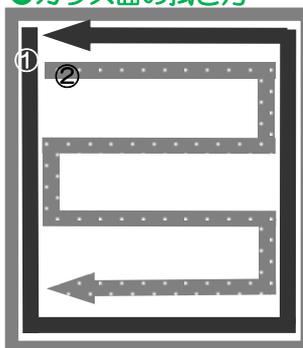


2 ガラス面を拭く

P.6 『タオルの使い方』 4～5参照

- (1) タオルの折り目のない辺を、親指と人差し指ではさんで持つ。
- (2) ガラスの枠側を 1 周拭く（四隅は指先を使い押し込む）。中央部をむらのないようにコの字型に拭く。作業途中でタオルの汚れを確認する。汚れていたら、その面が内側になるように折り返し、新しい面を出す。

●ガラス面の拭き方



※拭き残しなく拭ければ、拭き始めが左図と異なっても、周りを時計回りに拭いてもよい。

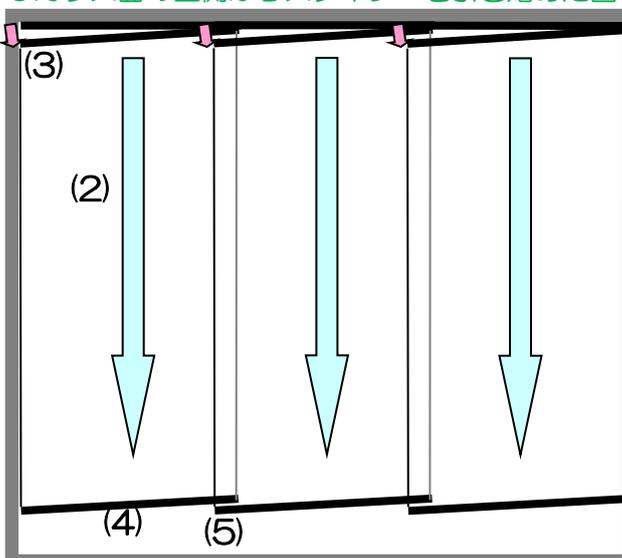
3 スクイジーを使う

【縦引き作業】

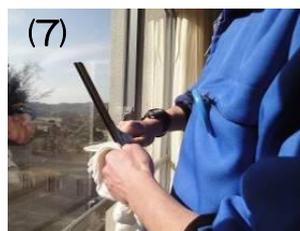
- (1) 絞ったタオルを一方の手に、スクイジーを他方の手に持つ。
- (2) 上部から下部へスクイジーを縦に引き下ろす。（左右どちらから引いてもよい）
- (3) 作業の終わった側のゴム刃を3 cm程度下に傾け先行させ、汚水を広げないように引く。
- (4) 下枠までスクイジーを引き下ろさず、10～20 cm程度余らせて止める。
- (5) 引き残しがないように、前の引き跡に5 cm程度重なるように引く。



●ガラス面の左側からスクイジーを引き始めた図



(6) スクイジーを引くとき、ゴム刃の角度を一定に保ち、軽く押しつけるようにして一気に引く。ゴム刃の角度を変えないため、膝を曲げて身体全体で引き下ろす。



(7) スクイジーを引くたび、ゴム刃をタオルで拭く→汚水をガラスにつけないため。

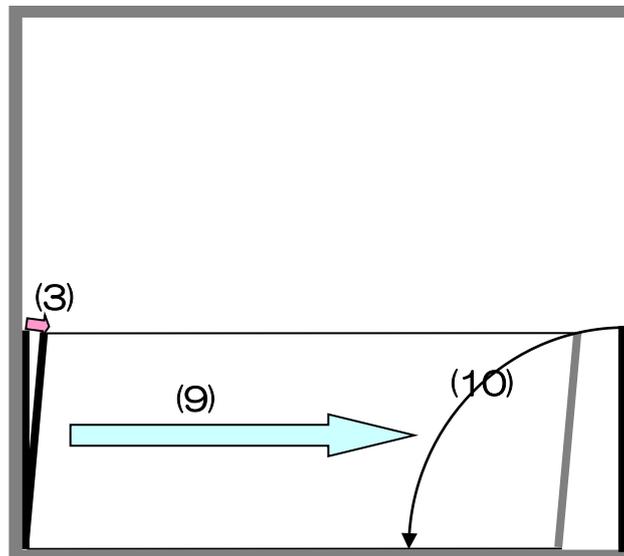
(8) (2)～(7)の作業を全面にわたり繰り返す。

(9) ガラス面の下の部分を、縦枠まで10cm程度残したところまで、水分を落とさないようタオルを真下にあてながら、スクイジーを横に引く。

(10) コーナーは、タオルを真下にあてながら、スクイジーを扇形に引き下ろして仕上げる。力を入れすぎると、水切り操作がしにくい。

(11) タオルの汚れた面が内側になるように折り返して新しい面を出し、バケツの縁にかける。

●ガラス面下部のスクイジーの引き方



4 から拭き・点検・補修

(1) 乾いたタオルでガラス面の縁をから拭きする。タオルを指先にあてがい、四隅は奥まで拭く。



(2) ガラス面を斜めなどから見て、仕上がりを点検する。

(3) 補修の必要がある箇所を乾いたタオルで拭き直す。

5 片付け・手入れ

(1) バケツ周りや床がぬれていたら、ぬれタオルで拭く。

(2) スクイジーはゴム部分を水洗いして乾いたタオルで拭き、ゴム刃を上にして保管する。